

取材先	菊舎顕彰会		
企画名	俳句相撲選手権 美術館場所		
備考			
取材日	2024年6月30日(火) 天候[曇り] [ 13:00~15:30 ]	取材地	下関市立美術館

レポート

江戸時代の女流俳人 田上菊舎は、宝暦三年（1753）長府藩士・田上由永の長女として、長門田耕村（下関市豊北町田耕）に生まれました。24歳で夫と死別した後、以前から嗜んでいた俳諧を生涯の友とすることを決意し、得度して美濃から越前・越後・奥羽へと松尾芭蕉の「おくのほそ道」の逆コースを辿る大行脚に出ました。それだけではなく、江戸や京・大阪・九州各地など旅を続け、生涯旅した距離はおよそ二万キロ以上とされています。菊舎の俳諧行脚の旅の多くは一人旅で、雨や雪の日、夜の峠越え、関所通過など様々な困難を乗り越えての旅でした。菊舎顕彰会は、講演会、展覧会、研究会の開催、関連の書籍発行など、菊舎顕彰の輪を広めるため活動をしています。

現在、菊舎の共同企画展が下関市立美術館と下関市立歴史博物館で行われています。この日は、下関市立美術館で、菊舎顕彰会が20年間続けている「俳句相撲大会」が『俳句相撲選手権 美術館場所』として菊舎顕彰会の協力で開催されました。本物の土俵さながらの演出で、市内小学校4年生から6年生が応募した俳句のうち、予選を通過した24作品での取り組みでした。会場の参加者が挙げた団扇の数で勝敗が決まり、トーナメント方式で横綱・大関・関脇が決められました。個人への特別賞や抽選会の後、菊舎顕彰会の岡 昌子顧問より選評があり、俳句のポイントや簡単な俳句の作り方など話がありました。

「菊舎 旅と友を愛した人」の企画展は、下関市立美術館は〔旅編〕7月15日(月祝)まで、下関市立歴史博物館では〔ふるさと編〕7月21日(日)まで開催されます。田上菊舎の俳諧行脚の旅にふれてみてはいかがでしょうか。

状況写真



古川 代表

岡 顧問